

分 類	2-2 災害時の情報収集・通報要領
目 的	<p>大きな災害時に必要とされる情報は、時間の経過とともに変化する。発災直後には、まず何が起きたのかの確認や被害状況の把握であり、肉親や知人の安否確認である。これに続くのが「生活情報」である。こちらは、診療してくれる病院はどこか、日用品が手に入る商店はどこかなど、きわめて身近でローカルな情報である。したがって、それらの情報を入手する手段はマスメディアによるものとは異なる。それぞれの情報収集の仕方やその伝達方法について取り上げる。</p> <p>またわれわれが防災士として入手した情報を通報する場合についても扱う。地域に被災者救出のチーム等を創設している場合を除いては、具体的には消防や警察をはじめとした外部機関の支援を要する場合が中心になる。平時にはそれほど難しいとは思えない通報が、いざ大災害時となると途端に難しくなる。言うまでもないことであるが、通報は受け手にとって「分かり易い」ものでなければならない。現場にいる者が何を知らせようとしているか。連絡を受けた者（現場にいない者）が何を知らうとしているのか。ポイントを外さないための項目等について理解し、訓練を重ねておく必要がある。</p>
主な内容例	<ol style="list-style-type: none"> 1 インターネットの活用 「緊急速報メール」、「Google パーソンファインダー」、「SNS」 2 大規模災害時のインターネット利用法 3 インターネットラジオ（「ラジコ」、「らじる★らじる」、「各地のコミュニティFM」） 4 役立つ防災アプリ（「NHK ニュース・防災」、「Yahoo! 防災速報」「川の防災情報」、「防災情報 全国の避難所ガイド」）等 5 119 番通報と 110 番通報 6 SBAR（I-SUBARC）、メタンレポート（METHANE report） 7 トランシーバーの使い方（エリア内の情報通報）
参 考 資 料	<ol style="list-style-type: none"> 1 「防災士教本」（2019 年版）P.235～243 2 東京消防庁「119 番通報のしくみ」 警視庁「こんな時こそ 110 番」 3 「METHANE レポート」日本赤十字社医療センター 4 札幌市消防団無線運用要領（札幌市 10 消防団連合協議会）